

明智光秀
本徳寺藏

宇佐山城跡石垣
個人蔵

京極高次
徳源院蔵

西教寺

歴史
舞台

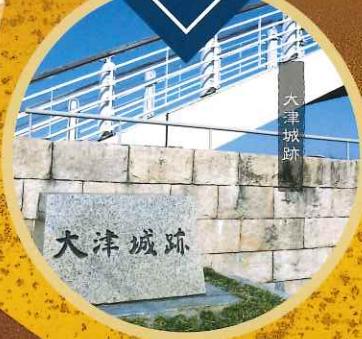
大津

湖都を駆けぬけた
戦国武将を訪ねて

森可成
国立国会図書館蔵



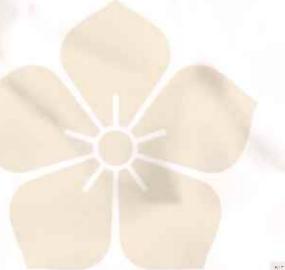
山岡景隆
個人蔵



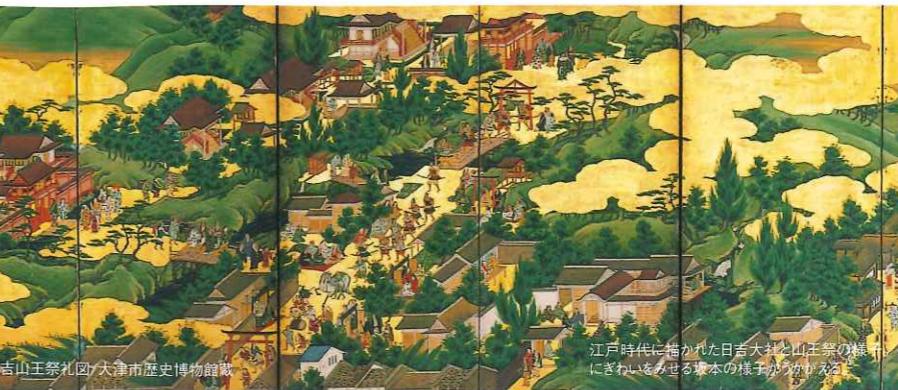
湖都大津を駆けぬけた 戦国武将を訪ねて

焼き討ち後の山門（延暦寺）が力を盛り返さないよう、監視の役目も担っていた坂本城。

坂本城と 明智光秀



明智光秀
?~1582年
本能寺の変で主君・織田信長を討ったことはあまりにも有名。これにより逆賊のイメージが強いが、坂本城をはじめ城主を務めた際には民政に力を注ぎ、領民に慕われていた。



琵琶湖畔の公園にひっそりと立つ明智光秀の石像。湖中には城郭の跡が残る。

豪壯華麗な名城を拠点として 近江平定を目指し駆け回った光秀

坂本城は、元亀二年（1571）の山門（延暦寺）焼き討ち後、織田信長が明智光秀に命じて築城させたものである。山門の監視ができる比叡山山麓にあること、そして山中越で京都に通じる交通の拠点であるという点から、当時坂本は天下を左右できるほど重要な場所だと考えられていた。当時活躍した馬借（運送業者の活動拠点となっていたのも坂本の三男・信孝に送った書状に「坂本城をもてば天下を指図したい野心があると思われる」と記されていることからも、坂本の重要性を知ることができます。

さて、坂本城の構造的な特徴をいくつか紹介したい。まず一つは、琵琶湖の水を城内に引き入れた水城形式の城郭である。文化的な営みを愛した光秀は、しばしば城の大里に裏抜けだらう。また、近江の城によく見られたこの水城形式は、当時、政治経済や軍事上の面からも、港の役割を果たす水陸交通の要衝となっていたようだ。そしてもう一つの大きな特徴は高層の天主を持つ豪壮な城であったということ。イエズス会宣教師のルイス・フロイド著書『日本史』の中で、「信長が安土山に建てるものにつけて、この明智の城ほど有名な

ものは天下にない」と語っている。光秀はこの豪壮な城を拠点とし、近江平定に奔走。本能寺の変で織田信長を討った。その後、山崎の合戦にて秀吉に敗れ、近江へ逃れる途中の小栗栖（京都伏見）で殺されると、坂本城は落城の憂き日をみることとなつた。

丹羽長秀の再建から廃城へ
光秀の死後、坂本城を受け取ったのは、近江平定のための拠点となっていた佐和山城にあった丹羽長秀である。長秀は落城一ヶ月後には坂本に入ったとされるが、それも長くは続かなかつた。秀吉の臣下・杉原家次、浅野長吉（長政）らが統いて城主となつたが、いずれも短く、城は天正十四年（1586）頃に解体され、大津へと移された。



丹羽長秀画像/東京大学史料編纂所蔵

坂本城落城の際、光秀の名刀を埋めたと伝わる明智塚。

坂本城跡周辺の見どころ

近江における湖城の先駆けとなった坂本城跡の周辺には、戦国時代にまつわるスポットが多数。穴太衆積みの石垣にも注目したい。



イベント情報

山王祭

3月1日～4月15日

春の訪れを告げる湖国の祭

湖国三大祭の一つ。日吉大社にて行われる。1300年もの歴史があり、地元では「山王さん」と呼ばれ親しまれている。1ヶ月半にも及ぶ祭で、見どころは多数あるが、中でも4月12～14日の3日間には神輿が巡行し、豪華絢爛な様子に多くの人々が酔いしれる。



山王祭（日吉大社）行事予定
3/1～4/12 献灯、3月第1日曜 神輿上神事、3/27 真榊神事、3/30 おいで神事、4/3 大椎神事、4/12 午の神事、4/13 花渡り式、宵宮落し神事、4/14 神輿神幸、粟津の御供、4/15 西の神事など



坂本城跡にあると伝わる最澄ゆかりの古寺

3 東南寺

最澄が創立した寺。別名、今津堂とも呼ばれる。江戸時代より寺は坂本城跡近くにたつといわれ、享保19年（1734）の地誌『近江輿地誌略』にも坂本城の跡地に建てたのが「今津堂（東南寺）」であり、「古城地の時の石垣、今に存す」と記されている。

077-578-6565（坂本観光案内所） ④大津市下阪本3-6-14 ⑤京阪電車松ノ馬場駅下車、徒歩15分

明智光秀の寄進が支えた寺
坂本城の遺構はここにあり

2 西教寺

天台真盛宗の總本山。山門焼き討ちで境内は焼失したが、光秀が総門や庫裏などを寄進した。現在の総門は、坂本城の総門を移築したものといわれる。また、光秀が戦没者の供養米を寄進した文書も残り、関係の深さがうかがえる。境内には、妻・照子をはじめ光秀とその一族の墓もある。

077-578-0013 ④大津市坂本5-13-1 ⑤京阪電車坂本比叡山口駅下車、江若バス約7分西教寺下車すぐ ⑨9時～16時30分 ⑥拝観料500円



自然石を見事に組み合わせた職人集団の美しい石積み

5 穴太衆積みの石垣

京阪電車・石坂線に「穴太」という駅がある。ここに居住地を置く石工集団が積んだ石垣のことを穴太衆積みと呼んだ。安土城をはじめとする城郭や寺院などの石垣を積んだことで知られ、延暦寺の麓に広がる坂本の町には、今も至るところ穴太衆積みの石垣を見ることができる。加工していない自然石を組み合わせ、中に小石を詰め込んでいるのが特徴で、高い技術が必要とされた。大津市指定文化財。



穴太衆積みの石垣が残る歴代天台座主の住居

6 滋賀院門跡

滋賀院は、天台座主の御座所。穴太衆積みの石垣が残されることでも知られ、背の高い石垣に白壁をめぐらした優雅な佇まいが印象的だ。その上にある慈眼堂には、山門焼き討ちの後の山門復興に尽力した慈眼大師・天海が祀られている。

077-578-0130 ④大津市坂本4-6-1 ⑤京阪電車坂本比叡山口駅下車、徒歩5分 ⑨9時～16時30分 ⑥拝観料450円

焼き討ちから復活した浅野家ゆかりの神社

4 酒井神社

市の無形民俗文化財に指定される「おこぼまつり」有名。山門焼き討ちで焼失したが、元和6年（1620）に、かつて坂本城主であった浅野長吉の次男で広島藩主浅野長晟（幸長の弟）が再建した。本殿は県指定文化財。

077-578-0494 ④大津市下阪本4-9-18 ⑤JR比叡山坂本駅下車、徒歩15分 ⑥無料

のルイス・フロイド著書『日本史』の中で、「信長が安土山に建てるものにつけて、この明智の城ほど有名な

城はない」と記されている。

これは琵琶湖に面してお茶席が設けられており、光秀の茶湯の師匠・津田宗及の茶会記には「浜ノ方の御座敷」と記されている。

これは琵琶湖に面してお茶席が設けられたという記述で、水城形式だったこと

で茶会を開いていたようだ。

茶湯の師匠・津田宗及の茶会記には「浜ノ方の御座敷」と記されている。



寛保2年(1742)作成された
大津城周辺の地図。湖岸
にある「御藏」と伏見所がか
つての大津城跡。

大津町古絵図 大津市指定文化財/個人蔵

○ 沖水三川
○ 大津川
○ 拓谷馬場
○ 山林草木
○ 堂社寺社
○ 司校寺社
○ 寺社寺社
○ さくさく

水陸交通の要衝である大津に築かれた大津城。浅井三姉妹の次女・お初を妻に持つ、京極高次がここにどうした行動とは?

豊臣秀吉が坂本城を廃城にし、次に城を移した場所が大津である。秀吉の近江支配が安定したこと、京都や大阪が拠点とされるようになって物資の中継港となる大津の重要性が高まることなど、城地に選ばれた大きな理由だ。城郭は浜大津の一角を占める水城形式であつたが、城跡や縄張図が残っておらず、その詳細は不明なところが多い。

城が移った年代についても同様だと推測できる。初代城主は坂本城主であった浅野長吉(長政)が務め、その後は増田長盛、新庄直頼、京極高次と続いた。1586年頃には城の機能が移つて、京都の吉田神社の神官・吉田兼見の日記から、遅くとも天正十四年(1586)頃には城の機能が移つていた。四人の城主・高次の活躍は、なんといつても閑ヶ原の合戦の直前の籠城戦。秀吉の没後、五大老の一人であった徳川家康が諸大名圧服のため出兵・討伐を始めると、それに反感をもつた豊臣方の諸大名らが大坂城へ集結した。このとき、家康は大津城に入り高次と密談を始めた。それが、ついでに反感をもつた豊臣方の諸大名らが大坂城へ集結した。このとき、家康は大津城に入り高次と密談を始めた。

豊臣秀吉が坂本城を廃城にし、次に

城を移した場所が大津である。秀吉の

近江支配が安定したこと、京都や大阪

が拠点とされるようになって物資の中継

港となる大津の重要性が高まつたことな

どが、城地に選ばれた大きな理由だ。城

郭は浜大津の一角を占める水城形式で

あつたが、城跡や縄張図が残つておらず、

その詳細は不明なところが多い。

城が移った年代についても同様だ

と推測できる。初代城主は坂本城主

であった浅野長吉(長政)が務め、その後

は増田長盛、新庄直頼、京極高次と続

いた。

四人の城主・高次の活躍は、なんと

いっても閑ヶ原の合戦の直前の籠城戦。

秀吉の没後、五大老の一人であつた徳

川家康が諸大名圧服のため出兵・討伐

を始めると、それに反感をもつた豊臣方

の諸大名らが大坂城へ集結した。このとき、家康は大津城に入り高次と密談を始めた。

豊臣秀吉が坂本城を廃城にし、次に

城を移した場所が大津である。秀吉の

近江支配が安定したこと、京都や大阪

が拠点とされるようになって物資の中継

港となる大津の重要性が高まつたことな

どが、城地に選ばれた大きな理由だ。城

郭は浜大津の一角を占める水城形式で

あつたが、城跡や縄張図が残つておらず、

その詳細は不明なところが多い。

城が移った年代についても同様だ

と推測できる。初代城主は坂本城主

であった浅野長吉(長政)が務め、その後

は増田長盛、新庄直頼、京極高次と続

いた。

四人の城主・高次の活躍は、なんと

いっても閑ヶ原の合戦の直前の籠城戦。

秀吉の没後、五大老の一人であつた徳

川家康が諸大名圧服のため出兵・討伐

を始めると、それに反感をもつた豊臣方

の諸大名らが大坂城へ集結した。このとき、家康は大津城に入り高次と密談を始めた。

豊臣秀吉が坂本城を廃城にし、次に

城を移した場所が大津である。秀吉の

近江支配が安定したこと、京都や大阪

が拠点とされるようになって物資の中継

港となる大津の重要性が高まつたことな

どが、城地に選ばれた大きな理由だ。城

郭は浜大津の一角を占める水城形式で

あつたが、城跡や縄張図が残つておらず、

その詳細は不明なところが多い。

城が移った年代についても同様だ

と推測できる。初代城主は坂本城主

であった浅野長吉(長政)が務め、その後

は増田長盛、新庄直頼、京極高次と続

いた。

四人の城主・高次の活躍は、なんと

いっても閑ヶ原の合戦の直前の籠城戦。

秀吉の没後、五大老の一人であつた徳

川家康が諸大名圧服のため出兵・討伐

を始めると、それに反感をもつた豊臣方

の諸大名らが大坂城へ集結した。このとき、家康は大津城に入り高次と密談を始めた。

豊臣秀吉が坂本城を廃城にし、次に

城を移した場所が大津である。秀吉の

近江支配が安定したこと、京都や大阪

が拠点とされるようになって物資の中継

港となる大津の重要性が高まつたことな

どが、城地に選ばれた大きな理由だ。城

郭は浜大津の一角を占める水城形式で

あつたが、城跡や縄張図が残つておらず、

その詳細は不明なところが多い。

城が移った年代についても同様だ

と推測できる。初代城主は坂本城主

であった浅野長吉(長政)が務め、その後

は増田長盛、新庄直頼、京極高次と続

いた。

四人の城主・高次の活躍は、なんと

いっても閑ヶ原の合戦の直前の籠城戦。

秀吉の没後、五大老の一人であつた徳

川家康が諸大名圧服のため出兵・討伐

を始めると、それに反感をもつた豊臣方

の諸大名らが大坂城へ集結した。このとき、家康は大津城に入り高次と密談を始めた。

豊臣秀吉が坂本城を廃城にし、次に

城を移した場所が大津である。秀吉の

近江支配が安定したこと、京都や大阪

が拠点とされるようになって物資の中継

港となる大津の重要性が高まつたことな

どが、城地に選ばれた大きな理由だ。城

郭は浜大津の一角を占める水城形式で

あつたが、城跡や縄張図が残つておらず、

その詳細は不明なところが多い。

城が移った年代についても同様だ

と推測できる。初代城主は坂本城主

であった浅野長吉(長政)が務め、その後

は増田長盛、新庄直頼、京極高次と続

いた。

四人の城主・高次の活躍は、なんと

いっても閑ヶ原の合戦の直前の籠城戦。

秀吉の没後、五大老の一人であつた徳

川家康が諸大名圧服のため出兵・討伐

を始めると、それに反感をもつた豊臣方

の諸大名らが大坂城へ集結した。このとき、家康は大津城に入り高次と密談を始めた。

豊臣秀吉が坂本城を廃城にし、次に

城を移した場所が大津である。秀吉の

近江支配が安定したこと、京都や大阪

が拠点とされるようになって物資の中継

港となる大津の重要性が高まつたことな

どが、城地に選ばれた大きな理由だ。城

郭は浜大津の一角を占める水城形式で

あつたが、城跡や縄張図が残つておらず、

その詳細は不明なところが多い。

城が移った年代についても同様だ

と推測できる。初代城主は坂本城主

であった浅野長吉(長政)が務め、その後

は増田長盛、新庄直頼、京極高次と続

いた。

四人の城主・高次の活躍は、なんと

いっても閑ヶ原の合戦の直前の籠城戦。

秀吉の没後、五大老の一人であつた徳

川家康が諸大名圧服のため出兵・討伐

を始めると、それに反感をもつた豊臣方

の諸大名らが大坂城へ集結した。このとき、家康は大津城に入り高次と密談を始めた。

豊臣秀吉が坂本城を廃城にし、次に

城を移した場所が大津である。秀吉の

近江支配が安定したこと、京都や大阪

が拠点とされるようになって物資の中継

港となる大津の重要性が高まつたことな

どが、城地に選ばれた大きな理由だ。城

郭は浜大津の一角を占める水城形式で

あつたが、城跡や縄張図が残つておらず、

その詳細は不明なところが多い。

城が移った年代についても同様だ

と推測できる。初代城主は坂本城主

であった浅野長吉(長政)が務め、その後

は増田長盛、新庄直頼、京極高次と続

いた。

四人の城主・高次の活躍は、なんと

いっても閑ヶ原の合戦の直前の籠城戦。

秀吉の没後、五大老の一人であつた徳

川家康が諸大名圧服のため出兵・討伐

を始めると、それに反感をもつた豊臣方

の諸大名らが大坂城へ集結した。このとき、家康は大津城に入り高次と密談を始めた。

豊臣秀吉が坂本城を廃城にし、次に

城を移した場所が大津である。秀吉の

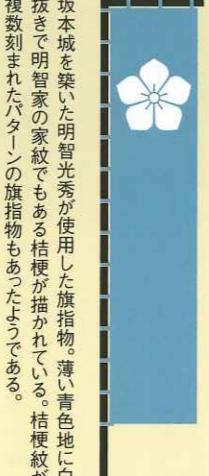
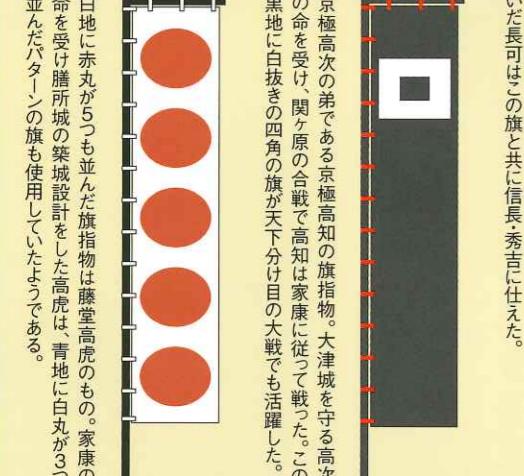


イベント情報
粟津の御供
4月14日

鎌倉時代より伝わる湖上の神事

唐崎神社沖より湖上の神輿船へ供え物を運び、献じる神事で、日吉大社の山王祭で営まれる。奈良から日吉大社に琵琶湖を渡って遷ろうとした西本宮のご祭神大己貴神に、田中恒世という人物が粟を献じて喜ばれたという伝承が始まり。それを元に、田中恒世にゆかりある膳所神社・篠津神社・若宮八幡神社・和田神社・石坐神社の五社が毎年交代で執り行っている。

問合せ先…日吉大社(→P3)



戦国時代の軍旗

大津にはためいた色とりどりの旗指物

戦国時代の戦では武将ごとに異なるデザインの旗指物を使用した。この旗を見て敵味方を判別していたからである。自分をアピールするために派手な旗を用いる武将や「一人で複数パターン」の旗を使用する武将もいたようである。軍隊の象徴である旗を預かる旗奉行には歴戦の猛者があつらえた。大津にゆかりのある武将たちの旗を見ていこう。



**大事な身分証明書代わり
デザイン豊富な家紋たち**

家紋はそれぞれの家ごとに特徴あるデザインが施され、その家系や血統、家柄や地位などを表す重要なマークであった。戦国時代にはこの家紋を鏡に刻んで戦に赴く武将も多く、旗指物と同じように敵味方の識別という意味合いも持っていたようである。大津を駆けぬけた武将や近江出身の武将の家紋はどのようなものがあるか確認してみよう。

戦国武将の家紋

山岡氏
木瓜
黒餅

戸田氏
九曜

藤堂氏
鳶

京極氏
四目結

森氏
鶴丸

明智氏
桔梗

土岐氏の一族である明智氏の家紋。美濃の明智庄にいわゆる藤堂氏の家紋。幾多の家紋。膳所城の初代城主となつた戸田二西が有名。戸田氏宗家は六つ星と呼ばれる家紋を使用している。

北家藤原氏流の戸田氏支流の家紋。膳所城の初代城主となつた戸田二西が有名。戸田氏宗家は六つ星と呼ばれる家紋を使用している。

近江国犬上郡を発祥の地とする藤堂氏の家紋。幾多の家紋。膳所城の初代城主となつた藤堂高虎がこの鳥紋を世に知らしめた。

近江源氏の佐々木氏の流れを汲むといわれている京極氏の家紋。戦功と城造りで名を上げ、大名になった藤堂高虎がこの鳥紋を世に知らしめた。

清和源氏・義家流を称する森氏の家紋で、両翼を広げた鶴が施される。槍の名手である森可成もこの紋を背負って戦場を駆けぬけた。



膳所城跡は公園に姿を変えた。本丸跡に位置する。



膳所城跡公園内にある石地蔵。膳所築城のために大津城から持ってきたとされる。



近江八景園屏風/大津市歴史博物館蔵

歌に唄われるほど美しい景観を持ち、長い歴史を誇った膳所城。関ヶ原の合戦で勝利をおさめた徳川家康が繩張の名手と手掛けた城の全貌を解き明かす。

湖都大津を駆けぬけた
戦国武将を訪ねて

膳所城と徳川家康



徳川家康
1542年～1616年
幼少期は織田家・今川家の人身となる。そこで培われた強靭な忍耐力により、織田信長、豊臣秀吉に従事して天下統一を果たし、慶応3年(1867)まで続く江戸幕府を開いた。

天下を治めた徳川家康が築かせた唄い継がれる美しい湖畔の城

慶長五年(1600)、天下分け目の戦いといわれる関ヶ原の合戦で勝利をおさめた徳川家康。その翌年、膳所崎の地に築かせたのが膳所城である。旧膳所藩士・平田好が記した「懐郷坐談」の築城にまつわるエピソードから、膳所崎が選ばれた理由が読みとれる。当時、関ヶ原の合戦後の守備として逢坂関を復旧するかはたまた大津城を再興するか、家康は信頼の厚い近臣・本多正信に相談したという。大津城跡は背後の山から俯瞰されやすく、関ヶ原の合戦直前の籠城戦でも守りのもらさを見せたこともあり、候補から無理があつたため、城地として地勢を判断した結果、最終的に決定されたの

が膳所崎だった。ちなみに膳所城は、天下を治めた家康が最初に造った城として知られている。城は寛文二年(1662)の大地震によって大きく変貌、本丸と二の丸をつないで本丸に、三の丸を二の丸にすれ、現在も地に移築され、現在も所神社や篠津神社(ともに重要文化財)をはじめ各所の城跡には天守跡を示す石標が立てられている。

膳所城の初代城主は、本多正信の強い推奨により廃城直前の大津城を預かって

いた戸田一西に任命された。三万石の膳所城を賜つたことは、武蔵國で五千石を領していた一西にとって誉れ高いことだつただろうと想像できるが、彼はわずか一年で没している。現在は、妻とともに膳所の縁心寺に眠っている。

初代城主は大津城主の戸田一西

戸田一西画像/大垣市教育委員会提供

藤堂高虎画像/西蓮寺蔵

とくがわいえやす
徳川家康
1542年～1616年
幼少期は織田家・今川家の人身となる。そこで培われた強靭な忍耐力により、織田信長、豊臣秀吉に従事して天下統一を果たし、慶応3年(1867)まで続く江戸幕府を開いた。

徳川家康像(東照宮御影 9月17日拝礼)/徳川記念財团蔵

湖都大津を駆けぬけた 戦国武将を訪ねて

瀬田城と 山岡景隆

京都をめざす軍勢にとつて一大戦略拠点となつた瀬田唐橋。橋のともとに築かれた瀬田城もまた、大きな意味を持つ城だつた。城主・山岡景隆がどうした行動とは?

琵琶湖から流れる唯一の川・瀬田川に架かる瀬田唐橋。「急がば回れ」の語源となった橋で、日本三名橋の一つに数えられる。今は多くの橋が架かる瀬田川だが、戦国時代はこの瀬田唐橋のみだったため、東から京都を目指す軍勢にとってもそれを阻止する者にとっても重要な拠点であり、軍事上の要衝の地となつてゐた。その橋の東畔にあったのが瀬田城で、城もまた橋同様に重要な位置を占めていた。

永享年間（1429～41）の山岡資広から始まり、瀬田城主は代々山岡氏が引き継ぐことになるが、中でも著名的なのは七代目城主に当たる山岡景隆である。景隆は織田信長からの信頼が厚く、上洛のたびに瀬田城を宿所としたことなどが記録に残つてゐる。そんな景隆の名を知らしめたのは、明智光秀と瀬田唐橋で繰り広げた攻防戦。天正十年（1582）、本能寺の変で信長を討つた光秀は安土城を占拠するべく瀬田橋に軍を進めた。その後、なんと景隆は架橋を任せられていた

瀬田唐橋を焼き落とし、光秀の行く手を阻んだのだ。この行動にさすがの光秀も圧倒され、いたん兵を引かざるをえなくなつたという。忠義を守り人情に厚い景隆の人柄がよくわかるエピソードとなる。



ドである。
その後、景隆は信長の次男である織田信雄らに属して北伊勢攻めに参陣するも、賤ヶ岳の合戦で秀吉の敵である柴田勝家に内通していたことを理由に、瀬田城を追われることとなつた。瀬田城主は浅野長吉（長政）が務めるも、在城期間は短く、同年中には坂本城へと移つた。

周辺の見どころ
瀬田唐橋の守り神として信仰されている古社

龍王宮秀郷社
瀬田唐橋の東詰、平安時代に「ムカゲ退治」伝説で有名な平将門の乱を鎮めた藤原秀郷（俵藤太）の靈を祀る秀郷社と、ムカゲ退治で夫婦の契りを結ぶ瀬田唐橋の下にある龍王社（橋守神社）が鎮座する。

山岡景隆
1525年～1585年
六角氏に属し、南近江の旗頭として活躍した豪族。織田信長から信頼され、忠誠心が厚かったことで有名だ。賤ヶ岳の戦いでは羽柴秀吉と敵対した。

比叡山延暦寺と復興した人々



瑞應堂は、室町末期の建築様式を残す。焼討ちをまぬがれた唯一の建物といわれる。

偉大な力を持つ延暦寺が信仰の世界に戻るまで

が西塔の釈迦堂とし、移築され、慶長九年（1604）には豊臣秀頼の母・淀君の発願により、横川中堂の改築も行われた。山門と同様に社殿が全て焼失した日吉大社についても、信長が没した天正十年（1582）に再興の刺許が下り、再興が始まった。天正十四年（1586）に大宮（西本宮）が完成されると動きが活発化し、二宮・十禅師・聖眞子・客人、三宮・八王子の山王七社についても山門の協力を得て順次完成した。

この後、忘れてはならないのは、徳川家康のブレーンとして江戸幕府に深く関与した慈眼大師こと天海である。天海もまた山門の復興に大きく尽力した一人であり、家康・秀忠・家光と徳川三代の将軍の強い信任を得ていた。寛永八年（1631）に再建された根本中堂が暴風雨で倒壊したとき、家光に再建を進言したのも天海だ。家光は約八年の歳月をかけて、寛永十九年（1642）にほかの堂塔を圧倒する豪壮な根本中堂を完成させた。

元亀元年（1570）、浅井・朝倉連合軍が湖西路を南下したことをきっかけに、山門が反信長の意思を明確にした。この危機的状況を回避するため、信長は朝廷の仲介を得て、浅井・朝倉連合軍と一時的に和睦した。このことを受け、元亀二年（1571）九月に山門焼き討ちを決行した。麓の坂本から日吉大社、続いて三塔に散在した諸堂を焼き討ち、三千人以上の僧や村人が犠牲になつたと伝えられる。

豊臣秀吉画像（重要文化財）/西教寺蔵
織田信長画像（重要文化財）/所有者長興寺・写真協力 豊田市郷土資料館

天正12年（1584）、豊臣秀吉が山門（延暦寺）に宛てて出した復興許可書。この判物が山門再興の出発点となつた。

天正12年（1584）
延暦寺再興判物
重要文化財/延暦寺蔵
天正12年（1584）
延暦寺再興判物
重要文化財/延暦寺蔵

山門再興判物 重要文化財/延暦寺蔵
寺（園城寺）の弥勒堂
（園城寺）の弥勒堂



比叡山延暦寺の總本堂である根本中堂（徳川・元將軍家光が再建）。

比叡山延暦寺の總本堂である根本中堂（徳川・元將軍家光が再建）。
この後、忘れてはならないのは、徳川家康、伊達政宗らの協力も加わり、東塔の根本中堂から再建が始まった。また、文禄四年（1595）には三井寺（圓城寺）の弥勒堂



豊臣秀吉画像（重要文化財）/西教寺蔵
織田信長画像（重要文化財）/所有者長興寺・写真協力 豊田市郷土資料館



戦国時代には軍事的主要路となった瀬田唐橋。「唐橋を制する者は天下を制す」とも言つた。

本能寺の変後の攻防劇
城主・景隆の忠誠心が鍵を握つた

ドである。

その後、景隆は信長の

次男である織田信雄ら

に属して北伊勢攻めに参陣するも、賤ヶ岳の合戦で秀吉の敵である柴田勝家に内通していたことを理由に、瀬田城を追われることとなつた。瀬田城主は浅野長吉（長政）が務めるも、在城期間は短く、同年中には坂本城へと移つた。

周辺の見どころ

瀬田唐橋の守り神として

信仰されている古社

龍王宮秀郷社
瀬田唐橋の東詰、平安時代に「ムカゲ退治」伝説で有名な平将門の乱を鎮めた藤原秀郷（俵藤太）の靈を祀る秀郷社と、ムカゲ退治で夫婦の契りを結ぶ瀬田唐橋の下にある龍王社（橋守神社）が鎮座する。

山岡景隆

1525年～1585年

六角氏に属し、南近江の旗頭として活躍した豪族。織田信長から信頼され、忠誠心が厚かったことで有名だ。賤ヶ岳の戦いでは羽柴秀吉と敵対した。

山岡景隆画像（個人蔵）

戦国の史跡をめぐって城をとれ

大津城跡攻め



京極高次が籠城した大津城跡周辺をめぐるコース。
廃城後も湖上交通の要所として栄え、
伝統のある祭や文化が残っている。

膳所城跡攻め



湖上の浮城と呼ばれた膳所城の跡地や
移築された建築物をめぐるコース。
城門跡の石碑をめぐると城の大きさがみえてくる!

戦国～江戸時代に発展した大津の城下町をめぐるオススメの1日観光コースを紹介。
城跡の石垣や当時の町並みが残る城跡周辺をじっくりと散策して、戦国武将たちに思いを馳せながら歴史の足跡を探してみよう。

坂本城跡攻め～琵琶湖の変～



坂本城跡周辺を琵琶湖湖岸に
沿ってめぐるコース。明智光秀も眺めた
琵琶湖の景色を眺めながら、
ゆかりの場所を散策しよう。

坂本城跡攻め～穴太衆積みの石垣の変～



明智光秀一族の墓がある西教寺を
目指して坂本城跡周辺を散策する
コース。穴太衆積みの石垣が残り、
風情ある城下町の景色が楽しめる。



(明智光秀像)

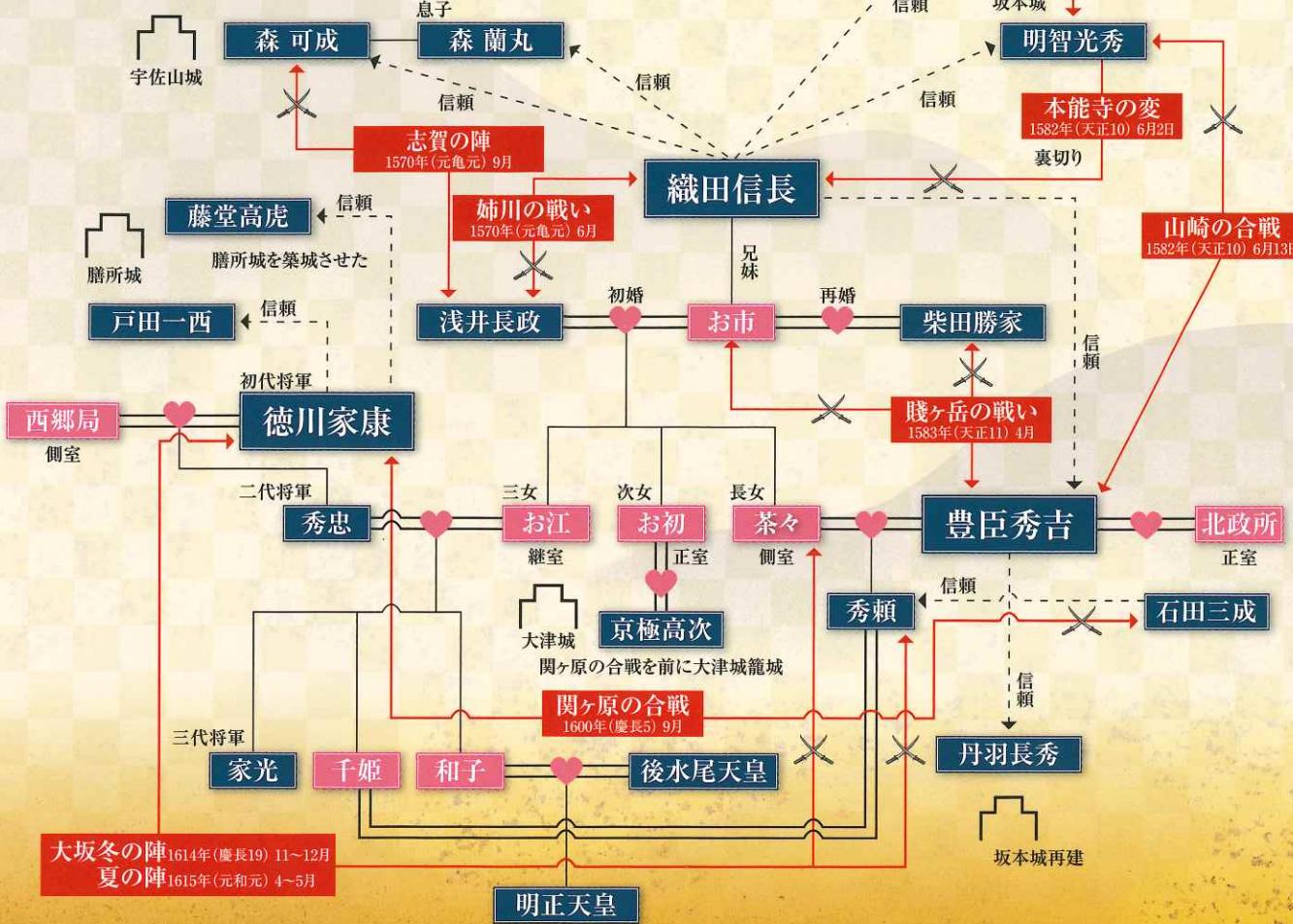


(JR 比叡山坂本駅)

(山の辺の道)

(日吉大社)

湖都大津を駆けぬけた 戦国武将を訪ねて 相関図



1560年 (永禄3)	桶狭間の戦い(織田信長が今川義元を敗る)
1571年 (元亀元)	姉川の戦い 織田信長が宇佐山城築城
1573年 (天正元)	信長が明智光秀に坂本城築城を命じる 志賀の陣(浅井・朝倉連合軍に森可成が敗れる)
1575年 (天正3)	室町幕府が滅亡(織田信長が足利義昭を追放) 浅井長政が小谷城で自刃する
1576年 (天正4)	長篠の戦い 織田信長が安土城を築城
1582年 (天正10)	本能寺の変(織田信長自害) 山崎の合戦(羽柴・豊臣)秀吉が明智光秀を敗る
1583年 (天正11)	坂本城落城(その後、丹羽長秀により再建) 賤ヶ岳の戦い(羽柴・豊臣)秀吉が柴田勝家を破る
1584年 (天正12)	羽柴(豊臣)秀吉が大坂城築城開始 この頃、大津城が築かれる
1586年 (天正14)	豊臣秀吉が山門(延暦寺)の再興を許可する
1590年 (天正18)	豊臣秀吉が天下統一を果たす
1600年 (慶長5)	京極高次・お初、大津城に籠城 東海道が整備される 関ヶ原の合戦 (徳川家康率いる東軍が石田光成率いる西軍を敗る)
1603年 (慶長8)	徳川家康が大津城を廢城 家康が戸田一西に膳所城築城を命じる
1614年 (慶長19)	江戸幕府が開かれる
1615年 (元和元)	大坂夏の陣(徳川家康が豊臣秀頼を敗る) 大政奉還(江戸幕府が滅亡)
1867年 (明治3)	膳所城廃城

発行・お問い合わせ
びわ湖大津志賀観光振興協議会